

## 徒然草

### 廃貨は何のために？：ビルマ式廃貨のインパクト<sup>1</sup>

藤村建夫

ミャンマー日本エコツアーリズム会長

1987年9月のある日曜日の朝、私はラングーン国際ゴルフ場で、友人達と一緒に週末ゴルフに汗を流し、いつものように「もやし炒め」を食べてビールを飲んだ。さて、お金を払おうと75チャット紙幣を出したところ、「マスター、このお金は無効です！今朝のラジオでこの紙幣は今日から廃貨になりました。」とウエイターが答えたのだった。

「えー！？」と我々一同は驚いた。25チャット、35チャット、75チャットが今日から無効になったという。私たちは料理とビール代を払えなくなった。食い逃げするしかない！支払は次週にしてもらって、あわてて退散したのだった。

「廃貨 (Demonetization)」とは、「流通している通貨が無効になる」、言い換えると「通貨が価値を失い、紙きれになる」ということだ。さあ大変だ。早速銀行に行って、新しい紙幣のお金をおろしてみると、何と45チャットと90チャットではないか。これでは計算が実にややこしい。事務所の経費支払いも計算機でいちいち必要枚数を計算しなければ暗算では難しい。政府は廃貨した紙幣は新紙幣と交換しないという。すると今保有している25, 35, 75チャット紙幣のすべて、公金も私金も、全てが紙切れになってしまったのだ。当時の公定レートは1ドルが8.5チャットだったから、JICA事務所も私も大きな損失だった。

この突然の廃貨に怒った学生達は騒ぎ出した。何しろ25チャットという彼らが日常使う紙幣が廃貨になってしまったのだ。彼らは昼飯の支払いもできなくなってしまったし、タンス預金の現金も殆どがパーになってしまったのだから。当時、人々は銀行を全く信用していなかった。何故ならお金をおろす時に少しでも多いと「何のために使うのか？」とかいろいろ聞かれるのがいやだったから。人々のタンス預金の大部分がパーになってしまった。いったい、政府は何のために廃貨をするのか？聞くところによると、ネ・ウイン大統領とほんの数人しか、この廃貨の実施について知らされていなかったという。

日本大使館も困っていた。公金がパーになったから。各国の外交団は一致して、ビルマ政府外務省に対して猛烈な抗議を行った。その結果、各大使館は保有する現金のチャットを公金と私金とに分けて、表を作成して提出することが許可された。日本大使館もJICA事務所も早速保有チャットの紙幣と枚数毎の表を作成した。人によってはひどく高額なチャットを保有している人もいた。恐らくは使用人に泣きつかれて、彼らの分を加えた額であったに違いないが。これらの表に記載されたチャット総額はその後半年くらいたって、新紙幣と交換されて密かに戻された。

---

<sup>1</sup> ビルマの国名は1989年にミャンマーと改称されたが、あえてここでは当時の国名のビルマを用いる。

おさまらないのは一般の国民だ。もちろん大臣の家族も含めて。何故なら、彼らさえも被害を被った筈だから。だが、何といても一番大きな損害を出したのは商人、なかでも闇商人たちである。彼らは当時の闇取引で一番利益をあげて、タンス預金の現金を保有していたのである。彼らのタンス預金は一日でパーになった。

ビルマ政府の廃貨は、実はこれが3度目であった。最初の廃貨は1964年5月に行われた。これはビルマ式社会主義による産業・流通の国有化によって、商人たちが闇商売を始めて蓄財したために、彼らを撲滅する目的で行われたとされている。この時は、高額紙幣の1000チャットが廃貨されたが、少額紙幣と交換された。第二回目の廃貨は1985年11月に、同じく闇商人に損害を与えるために行われた。この時は20、50、100チャット紙幣が廃貨され、新たに25、35、75チャット紙幣が発行された。これら2回の廃貨の時には、政府の統制がきつく、また、少額紙幣との交換が行われたことから、騒ぎには至らなかった。だが、1987年9月に行われた第三回目の廃貨の時は、事情が異なっていた。闇商人撲滅とインフレを抑えるために実施されたとされたが、新札との交換は行なわれなかった。このため、貨幣流通量は1987年6月の177万チャットから同年9月には81万チャットに半減した。国民生活が大打撃を受けたのは当然である。廃貨によって、多くの国民が財産を失った。この時すでに、経済は急速に悪化しており、国民の政府に対する不信と不満はいよいよ大きくなり、翌1988年8月8日の反政府騒乱へと発展したのである。知識ある人は「社会主義は平等な貧困の分配。資本主義は不平等な所得の分配」と嘆いていた。

ビルマ式社会主義経済のもとでは、国営企業が優先され、私企業は認められなかった。しかしながら、国営企業の製品の品質は悪く、密輸された質の良い外国製品が好まれる傾向があった。ビルマとタイ、中国との国境においては、密貿易が盛んに行われ、日常生活用品が大量に輸入されていた。国民は、大臣の家族達といえども密輸された質の良い日常生活用品に依存していたのである。これに対して、政府はビルマ式社会主義を維持するために、廃貨という手段によって闇商人を叩こうとしたのである。だが、廃貨のために財産を失った国民の多くは、以後、資産の損害を恐れ、金製品、宝石、米ドルの資産を増やすようになっていった。民主化が進む現在、このようにして蓄えられた資産が、徐々に産業に投資されるようになってきたように見える。

#### 廃貨された紙幣の例



45チャット紙幣



75チャット紙幣